



ストップ!ごみ一時集積所のカラス被害

近年、郊外や農村部をはじめ、市街地でもカラスの生息数が増え続け、それに伴いカラス被害も拡大しています。カラスにとって、食べ残しなどのごみが出る市街地は、エサが豊富にある楽園となっています。

カラスは視覚でエサを探すため、

ごみの中から好物の肉や揚げ物などを見つけ出すことができ、袋を破いたり引っ張ったりするのが得意です。中にはごみネットの隙間から中に入っていき学習能力の高いカラスもいるので、しっかりと対策を心掛けましょう!



ちょっとした心掛け!カラス対策

生ごみを減らす!

食材はできるだけ使い切り、食べ残しをなくして生ごみを減らすように工夫しましょう。また、生ごみ処理機やコンポスト容器を使って、生ごみを減量、リサイクルしましょう。

生ごみを不要になった紙で包む!

生ごみを不要になった紙などで包むことで、生ごみが見えないようにする効果が期待できます。
※ダンボールや紙袋は、リサイクル資源ですので、ごみ袋の代わりに使用しないでください。

防鳥ネットを使う!

黄色の防鳥ネットが効果的です。ごみは、防鳥ネットの中にきっちり納めて、隙間を作らないように注意しましょう。また、ネットが通行の邪魔にならないように、ネットの縁に重しを置くなどして管理してください。



生ごみは収集日の朝に出す!

前日の夜から出すと、カラスに狙われやすくなります。

ごみ集積庫を利用する!

集合住宅やアパート、自治会で、専用の集積庫がある場合は利用してください。集積庫には、軽量でコンパクトに折りたためるものもあります。



ごみ一時集積所設置等事業補助金制度

自治会が管理するごみ集積所(折りたたみ式の集積庫を含む)の設置工事などに補助金を交付しています。今年度からは自治会自らが施工する場合の原材料費も補助金の対象となりました。詳しくは環境事業課(☎237-5311)へお問い合わせください。



Check! ~防鳥ネットの使い方~

防鳥ネットは正しく使いましょう。きちんとネットで覆うことで、カラスの被害をほぼ防ぐことができます。ごみを出す時は、隙間がないかチェックしましょう。



ネットに隙間が

人には小さな隙間も…



カラスには大きな隙間!



重しを置くなどして、ネットに隙間ができないようにしましょう

